

「トラスツズマブ デルクステカン療法」について

この治療法は、HER2 タンパクが過剰発現している胃癌に対して行われる治療法です。

1. 投与方法

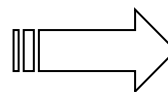
薬剤	効能または使用目的	投与時間
パロノセトロン＋ デキサメタゾン	吐き気予防	15分
5%ブドウ糖液	点滴ルートの洗浄	約5分
トラスツズマブ デルクステカン	抗がん剤	90分※
5%ブドウ糖液	点滴ルートの洗浄	約5分

※初回90分で投与し、問題なければ2回目以降30分と投与時間が短くなっていきます。

2. スケジュール

トラスツズマブ デルクステカン療法は21日サイクルで抗がん剤を投与していきます。初日にトラスツズマブ デルクステカンを投与すると残りの20日間は「休薬期間」といい、体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進みます。

	1サイクル(21日間)	
	1日目	2日目～21日目
投与日	○	
休薬日		○



3. 特徴

●トラスツズマブ デルクステカン

作用:トラスツズマブはがん細胞の表面にある HER2(ハーツー) 受容体への刺激をブロックしてがん細胞の増殖を抑制します。デルクステカンはがん細胞の分裂を阻止することで増殖を抑制します。

注意事項:点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。



4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にさせていただきたいと思います。)

間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。確率は低いですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ、呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

対策: 初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。



白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる(免疫反応)役割があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

好発時期: 抗がん剤を投与後7～14日目くらいに減少のピークを迎え、21日目くらいには回復します。

対策: 細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。手洗い、うがいを心がけましょう。

外出時はマスクを着用してください。

虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療をしておくことをお勧めします。



血小板減少

血小板は血液を固まりやすくする働きがあります。血小板が少なくなると出血しやすくなります。

好発時期: 抗がん剤を投与後10～14日目くらいに減少のピークを迎え、21日目くらいには回復します。

症状としては、あざが出来やすい、鼻血などの粘膜からの出血が起きやすくなった、などです。

対策: ケガや転倒の危険性がある作業は避けましょう。

歯ブラシは毛の柔らかいタイプを使うと良いでしょう。

吐き気・嘔吐

好発時期: 治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、

症状が7日間程度続く方もいらっしゃいます。

対策: 抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。

考えすぎるとそれだけで症状が出てくることがあります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分(水、スポーツドリンク、など)はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。

便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。

部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。



食欲不振

好発時期: 治療開始から数日～1週間程度で一時的に低下してることがあります。

対策: 食欲がない時には無理をせず、食べられるものを可能な範囲でバランスよく食べましょう。

症状が長続きするときはご相談ください。

注射時反応(Infusion reaction)

好発時期: トラスツズマブ デルクステカンが開始になってから**24時間以内に現れやすい症状**です。

主な症状は発熱、悪寒(さむけ)、動悸、めまい、発疹などです。まれに頭痛や倦怠感などが起こることがあります。

異常を感じたらスタッフにお知らせください。

2回目以降は起こりにくくなるのが特徴です。

対策: 解熱剤が処方になっている場合は、症状に合わせて服用してください。

肝機能障害

好発時期: 治療開始から肝機能が低下(AST、ALT などの上昇)してることがあります。まれに重症化することもあるため自覚症状に注意してください。

対策: 食欲不振や黄疸などの症状に気づいたら病院に連絡してください。

心機能低下

心機能が低下すると疲れやすくなり、息切れ、息苦しさ(座椅子などに座っているときのほうが横になっているより楽な状態など)、手足のむくみ、などの症状が出てきます。

重篤になると心不全を起こすことがあるため注意が必要です。

好発時期: 治療が進むにつれて起きやすくなっていきます。

対策: 心臓の検査を行い評価します。

状態によっては休薬して回復を待ったり、場合によっては投与中止となることもあります。

もともと循環器系の病気をお持ちの方は、正常な方より症状が出やすくなります。

上記のような自覚症状が現れた場合は早めにご相談ください。



※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院

代表:TEL 028-626-5500